

短期留学の学生が成果発表 おかやま国際塾1期生

国際感覚を身につけた人材の育成に取り組む「おかやま国際塾」の1期生の修了証授与式が11月5日、岡山市内であった。同塾は国際医療ボランティア・AMDA（同市北区）と岡山大学で国際法を教える教員らでつくる実行委が主催。公募に応じた法・医・歯学部の学生8人が自らプログラムを計画・立案し、8月23～28日、モンゴルで活動した。

7月17日に学内で開講式を行い、国際協力法やNGO論などを学んだ学生は準備が着手。モンゴルではAMDAが長年、眼科を中心とした医療支援活動を続けており、学生たちは現地の医学生との交流や孤児院での医療支援といった活動計画を立て、自分たちで交渉に当たった。修了証授与式では、学生たちが感じたことや今後の課題を発表。「自ら進んで行動することの大切さを学んだ」「互いの交流を社会人になっても続けたい」「研修の成果をより多くの人と共有すべき」などの意見が出た。



▲おかやま国際塾での活動成果を発表する学生たち
= 11月5日、岡山国際交流センター

エラスムス・ムンドゥス・パートナーシップ プログラムを実施



▲プログラムの説明に聞き入る本学の関係者
= 10月28日、岡山大学本部棟第一会議室

岡山大学などアジア圏の6大学とEUの6教育機関が連携し、相互留学などを通じて研究交流の強化を図る「エラスムス・ムンドゥス・パートナーシッププログラム（Action2）」の留学希望者らを対象にした説明会が10月28日、学内で開かれた。プログラムに参加するエコー・サントラル・パリ（仏）エコー・サントラル・ナント（仏）インペリアル・カレッジ（英）ミュンヘン工科大学（独）の4教育機関の教授らが来学。学生ら約40人を前に、欧州の6教育機関と日韓の6大学との交流促

進を目的とするプログラムの全体説明をした後、各教育機関の代表が研究留学の概要や大学のある街の紹介などを行った。説明会に先立ち、EUからの訪問団は留学生の宿泊場所の国際交流会館を見学。受け入れ先、派遣元となる七つの研究室も視察した。プログラムはEU会議・理事会に承認されたエラスムス・ムンドゥス計画の一部。欧州と日韓のパートナーシップ形成を目指し、博士課程の学生、ポスドク、教員らが相互に留学、交流を促進する。

研究担当理事・副学長

The Message from Executive Director

新理事紹介

11月1日付けで、山本進一氏（元名古屋大学大学院生命農学研究科教授）が研究担当理事・副学長に就任した。教育・研究担当だった阿部宏史理事は同日付けで、教育担当となった。



山本進一
YAMAMOTO, Shin-ichi

岡山大学が潜在的に持っている研究力を世界レベルに押し上げた。『Okayama University』の知名度アップのためには、国際広報に力を入れ、国際的なランキングで実力が正当に評価される努力が必要。基礎研究を大切にしながら、成果を広く社会に還元するため産学官連携もさらに活発にしたい。

やまもと しんいち
専門は森林生態学。京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。岡山大学農学部助教授、名古屋大学農学部教授、同大学院生命農学研究科長、同大副総長などを歴任。大阪市出身。



ホームカミングデイ2011を開催

岡山大学は、卒業後も母校との絆を大切にし、国際的な教育研究拠点を目指す大学をともに育ててもらおうと、10月22日、「ホームカミングデイ2011」を開催した。訪れた卒業生は、再会した旧友や恩師と懐かしい時間を過ごしたり、現役の学生と語り合うなど、思い思いに楽しんだ。

日ごろ、母校に帰る機会が少ない卒業生を招き、一日ゆっくりと過ごしてもらええる企画を用意。メイン会場となった創立五十周年記念館で歓迎式典があり、森田潔学長や小長啓一同窓会会長があいさつした。グリーンクラブ、ギターマンドリンクラブ、JAZZ研究会の3つの学生サークルが歌や演奏によるウ



エルカムコンサートを行ったほか、全学同窓会総会を開催。お茶席、福引き抽選会などは多くの人でにぎわった。

同記念館の外では応援団総部が歓迎と送別の演舞を披露。現役学生が歩いて案内するキャンパスツアーのほか、各学部やサークルごとに講演会や懇親会、ミニ同窓会、OBOG交流会など多彩な催しが開かれた。

ホームカミングデイは、岡山大学の開学記念日（10月22日）に合わせて開催しており、今年で2回目。来年は10月20日に開催する予定。

詳細は、ホームページ（<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/homecoming2011.html>）をご覧ください。

